要旨版

平成29年度第１回横須賀市健康増進計画・食育推進計画専門部会
議事録

１　開催日時　平成29年７月20日（木）　午後１時30分～

２　会　　場　ウエルシティ市民プラザ４階　母子保健室

３　出 席 者

委　員　嘉山静子、川辺幹男、武　雅兄、長谷川亜弥子、揚箸明朗、山本妙子、渡部月子　（敬称略、五十音順）

事務局　小林　利彰：保健所長
夏目　真一：保健所健康づくり課長
葛貫　博之：保健所健康づくり課生涯現役推進担当課長
角田　幸代：保健所健康づくり課係長
岡安　智子：保健所健康づくり課主任
田辺　久美子：保健所健康づくり課主任
長谷川　美千代：保健所健康づくり課主任
能條　絢加：保健所健康づくり課担当者

一般傍聴人　　０名

４　欠 席 者　田中　浩二

５　配布資料の確認

６　開　　会　事務局（保健所健康づくり課健康づくり推進係長）が司会となり開会した。

７　挨　　拶　小林保健所長が挨拶

８　部会員の紹介　　部会員からご挨拶をいただいた。

９　事務局職員の紹介　　事務局職員が自己紹介した。

１０　部会長の選出・職務代理者の指名　部会長として川辺部会員を選出し、職務代理者として楊箸部会員を指名した。

これより先は、部会長による議事進行で行われた。

１１　議事

（１）健康増進計画・食育推進計画と生涯現役プロジェクト（横須賀市第２次実施計画）について

・事務局が「健康増進計画・食育推進計画と生涯現役プロジェクト（横須賀市第２次実施計画）」について説明した。

・部会長より意見、質問等を求めた。

特になし

（２）「健康増進計画・食育推進計画（健康・食育推進プランよこすか）平成 28 年度進捗状況と平成 29 年度取り組み」等について

・事務局が資料１「健康増進計画・食育推進計画(健康・食育推進プランよこすか)平成 28 年度進捗状況と平成 29 年度取り組み」について説明した。

部会長より意見、質問等を求めた。

部会長質問　この表の中で「取り組みの分野」の二重線や点線に違いはあるのか。

事務局回答　□の線が、一重線は健康増進計画、点線は食育推進計画、二重線はこの２つの計画にまたがる内容になっている。

部会長質問　「主な取り組み」の中で赤字と黒字があるが、違いは何か。

事務局回答　変わった部分等ということで、特に強調したいものとなっている。

部会員質問　平成 29 年度の「栄養・食生活」の中で、「保育園の調理員と栄養士で食物アレルギーに対する給食について研究・検討をしていく」とあるが、何か課題があるのか。検討する根拠を説明してほしい。

事務局回答　こども育成部からは、子どもの食物アレルギーが変わってきているので、このような研究・検討をしていく予定と聞いている。

部会員質問　数が増えているということか。

事務局回答　数が増えていることもあるが、実際には子どものアレルギーに対する個別相談が増えてきている。詳細は後日報告させていただく。

部会員質問　学校では、学校給食のアレルギー対応のマニュアルがあるが、保育園ではまだそれが確立していないのか。

事務局回答　保育園では、保育園ごとの対応になっている。アレルギーは個人対応が必要だと思うので、この話が出てきている。

部会員質問　ここに「研究」と入れるのは妥当なのか。

事務局回答　取り組みの方向性は、こども育成部の担当から聞いているので、表現の仕方についてこちらで工夫する。

部会員意見　突然食物アレルギーのことが出てきた。今までの経緯の中で検討してきて、何が課題になり、この計画の中のどこに位置づけて、今回平成29年でこのテーマを絞ったということの説明をしていただけるとわかりやすい。

事務局回答　現状を確認し、次回ご説明できればと思う。

部会員質問　「平成 29 年度の主な取り組み」の２番目の「郵送型簡易検査」とは

どのようなものか。

事務局回答　39 歳になる国民健康保険の被保険者の方々に、一斉に郵送で簡易血液検査の案内をする。これはスマホでの対応になっており、希望者にはスマホにより申請を行っていただく。申請のあった方々に、業者から簡易血液検査のキット、書類を含めたものが郵送される。料金 500 円については希望者本人が負担する。量でいうと 0.065 ccの微量な血液を郵送で送り、14 種類の血液検査ができる。結果については１週間後にスマホのアプリでわかるため、若い人向けの検査になっている。８月１日から開始予定で、横須賀市の健康保険課で対応する。

部会員質問　自分で採血するのか。

事務局回答　はい。

部会員質問　「39 歳になる」としているところは、その年代が一番健診を受ける率が低かったからか。

事務局回答　40 歳から健診を受けるという意識づけのために行う。

（３）市民アンケートの報告、中間評価について

・事務局が「がん」、「循環器疾患・糖尿病」の分野について説明した。
部会長より意見、質問等を求めた。

部会員質問　中間値を５年後の目標に据えるというのは、これを下げないように維持していくということだと思う。さらに良くしていくという目標でなくてよいのか。

事務局回答　国が新たな目標値を出していない現状があり、現状として数値を出すとすればある程度見当をつけて、このくらいだろうというように出す形になる。すでに国の数値を上回っているので、これについてはしっかりと現状を維持するということで案として書かせていただいた。

部会長質問　がん検診も大事だが、３、４年前に文科省ががん教育について打ち出している。それを受けて医師会としてもがん教育に取り組んでいる。横須賀市ではそれはまだないのか。ここに入れていただければと思うが。

事務局回答　教育委員会と相談する。例えばそれが具体的な取り組み、事業の中にしっかりと位置づけができるか検討する。

・事務局が「健康づくりを目的としたネットワーク」の分野について説明した。
部会長より意見、質問等を求めた。

部会員質問　６ページの「今後の評価指標・目標値」で、ラジオ体操に取り組む団体数をいくつにするのか、数値目標の記載がない。

事務局回答　今の段階で、資料の中には落としていない。先ほど実施計画について説明させていただいたが、これとは別に「横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略」という計画があり、その中でラジオ体操の取り組みの数値目標 100 団体を目標数として掲げている。１年間に５団体ずつ増やしていき、平成 34 年度には 100 団体にするという数字となっている。この計画の中でも、100 団体をイメージしている。次の専門部会には、再度検討して具体的な数字を入れた形でお示しさせていただくので、またご意見をいただきたい。

部会員質問　「サポーターの養成」については、目標が達成された取り組みで素晴らしいと思う。それをあえて削除するのはもったいない。達成したことをしっかり評価をして、それにさらに加えることをお願いしたい。削除してしまうとその経過が消えてしまう。10 年計画の中で中間評価で達成して、さらに新たな方向性を示したということがしっかりとわかるような評価をしていかなければ、最終評価のときに困るのではないか。削除をしないほうがよいと思う。また、削除するということは、サポーター養成はもうしないということなのか。

事務局回答　ラジオ体操の取り組みとして、ラジオ体操サポーターの方々の役割は非常に大きかった。市と地域のつなぎ役になっていただき、地域に働きかけ団体が増えていった経緯がある。「削除」という表現は不適格だったと思う。達成したものということで新たな表現にしたいと思う。その中で、ラジオ体操サポーターは今市内で 626 人いるが、地域ごとに多い地域と少ない地域があり、この人数が登録団体の多い、少ないに比例した状況がある。人数を増やすことの目標はいったん終了し、今後はラジオ体操サポーターの養成は、市全域でというより比較的ラジオ体操の普及がまだまだといった地域を中心としたものに移行していきたいとは考えている。数値目標からはいったん終了し、今度は数字としては増やすのだが、今までの右肩上がりの数字よりは押さえる形で、きめ細かい推進をしていきたいと思っている。

部会員意見　サポーター養成は量ではなく、質を上げるということ。地域格差をなくしていくとか、サポーターになった方がすべて活動しているわけではないので、活動できる方向でのサポートということで、そのような形の研修会を積み重ねていくということも行っていかないと、団体

との活動の後押しにはならない。数を上げるだけではないサポーターの養成が必要だというようにおっしゃっているのだと思う。数としては200で構わないと思うので、やはり削除はしないほうがよい。最終評価の時に、推進してきたということが目に見えた方がよい。

事務局回答　改めて検討させていただく。次回にはお示しし再度ご意見をいただく。

・事務局が「食育」、「栄養・食生活」の分野について説明した。

部会長より意見、質問等を求めた。

部会員意見　厳しい現状であり、目標値が変わらないことについては仕方がないと思う。説明していただいたように、特に適正体重でないものについては、性別にも年齢別にも、やせの問題、肥満の問題という特徴のある状況であると思う。若い女性のやせを減らす、30代から50代の男性の肥満を減らすというように、働く男性にはこういった働きかけをするといった話につながるような説明を併せていただけると、次に具体的に何をするのかと考えやすい。

事務局回答　再度データを分析し、何が必要なのかということをもう一度お示しできる形で、次回ご提示させていただく。

部会員質問　10ページの肥満の割合の「40歳～60歳代女性」は、策定時は15.5%、中間値が16.4%で、なぜ「△」になっているのか。

事務局回答　基準としてプラス、マイナス１%以内で、変化があまりなかったものについては「△」と整理をしている。実際にはわずかではあるがマイナスになっているので、「×」ということになるが、事務局の考えとしては１%以内についてはよい部分についても悪い部分についても「△」と整理させていただいている。

部会員質問　ほかのところもあるか。

事務局回答　ほかのところでも、良い方のほぼ横ばい、悪い方のほぼ横ばいというところもある。改めて検討のうえ、次回にお示しし、またご意見をいただきたい。

部会長質問　なぜ評価の中に、やせがないのか。

事務局回答　目標値等については、前回から引き継いだ部分があるので、それを踏襲したものとして特段新たな項目は加えていない。しかし、やせと肥満の問題については少しご議論いただけるような資料を用意したい。

部会員意見　この表で、「１日３食食べる人の割合」が、「19歳～59歳」までで「60

歳から 79 歳」が入っていない。前回の経緯があってのことと思うが、高齢者の低栄養の心配もあるし、後半でバランスよくともいっているのであれば載せたほうがよいのではないか。せっかく分析のデータがあるのでもったいない。

事務局回答　今回は、前回この計画を策定したときに現状値として表記したものを、そのまま今回同じ視点で中間評価をさせていただいている。意図があって外したということではない。５年前は「１歳～18 歳」「19 歳～59 歳」とした理由として、「実際は難しいと考えるがスローガン的な目標とする」、「高齢者は３食食べる人が多いので 59 歳までとする」といったことで、この年齢区分となっている。次回やせ、肥満のデータを再度抽出させていただく。新たな目標値として加えるという議論もあってよいかと思う。特に、国の食育推進計画の中で、やせ等の課題も掲げてきており、新たな目標値として加えるということもあると思うので、次回までに検討させていただく。

部会員質問　策定時の経過はよく知らないが、「学校給食における地場産物を使用する」というのは地域の食文化ということを考慮に入れていると思う。これは具体的にメニューに記載しているのか。

事務局回答　産地については、どこで取れたという産地を記入したり、ホームページでも発表しているので、この数値になっている。

部会員意見　具体的に給食を食べさせるところで、先生がこれはこの農家で取れたもので苦労してつくっているのだと教えるようなことを行わないといけない。ただ単にこれは地元でつくられたものだということではなく、農家や漁師さんなどの産業の内容を教えるような取り組みをしないと意味がないのではないかと思う。

部会員意見　今ご指摘にあったような内容が学習指導要領の中に食育が位置づけられている。給食の時間も含めすべての教育活動の中で食育が行われるということがかなり徹底してきている。献立表に表示もあるし、それを食べるときに先生が一言お話をしながら子どもたちに食べてもらったり、また地域の生産者の方たちが学校にきてくださったりと、さまざまな取り組みがなされている。まだまだ十分な段階ではないかもしれないが、今のご意見はとても大事なことだと思う。

部会員意見　今回食育については、学校から献立の中に産地が記入されて配布されている。興味のある保護者であれば見ていると思うが、興味がない、忙しくて見られないとなると、学校の先生から子どもたちに伝わると

いう一部分でしかなくなってしまい、チャンスが少なくなってしまう。子どもたちに対して社会科の勉強や、給食、家庭科の勉強の中で、先生が細やかに説明してくだされば興味が出てくると思う。地域を含めて説明してくだされば理解できると思う。低学年については、まずその前においしく食べましょうというところで、横須賀市で取れたものがこの給食の中に使われて出されているということに興味を持って楽しく食べるというところはクリアできていると思う。

・事務局が「身体活動・運動」、「休養・こころの健康」の分野について説明した。

部会長より意見、質問等を求めた。

部会員質問　自殺者数については年齢別の傾向はあるか。

事務局回答　横須賀市で言うと、年齢別では高齢者のほうが高い傾向にある。男女別では男性のほうが高くなっている。自殺未遂については女性のほうが高くなっており、男性のほうが低いというデータがある。

部会員質問　高齢者の自殺については、一人暮らしの方、ご家族と暮らしている方の差はあるか。

事務局回答　同居の方のほうが多くなっている。一人暮らしの中で自殺をするといった傾向は少ない。

部会員質問　13 ページの「今後の評価指標・目標値」で、「目標を達成しているため、目標値を上げます」とある。その数字を今後具体的に入れるということか。

事務局回答　次回のときには具体的な数字を入れさせていただく。何かしらの指標、参考になる数字があればそういったものを参考にしながら、もしそういったものがなければある程度見当をつける必要がある。

・事務局が「喫煙」、「飲酒」、「歯・口腔の健康」の分野について説明した。

部会長より意見、質問等を求めた。

部会員意見　喫煙のところで、やはり未成年の喫煙の目標値については「０に近づける」ではなく「０」にすべきではないか。先ほどの適正体重のこともそうだが、若い世代の健康不安はますます大きくなっているところであるし、これからの時代を託していく方たちのために、どのような理屈があっても吸ってよいということにはならないと思う。喫煙に関してはぜひとも「０」にしていただきたい。

事務局意見　今の目標値は、「０に近づける」となっているが、ここは「０」にするべきであるというご意見のため、今後、他の委員からのご意見を伺った上で考えたい。

部会長意見　「０」でよいと思う。

事務局回答　その方向で次回までに訂正したい。

（４）今後のスケジュールについて

・事務局が「今後のスケジュール」について説明した。

次回（第２回）の専門部会開催日程について

８月 31 日（木）13 時 30 分～　に決定

（以上）